

第82回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年4月10日（日） 10:00～10:25
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303号室
- 3 内 容：

（1）最新の被害状況について【災害対策本部より】

事務局：（第97報のとおり説明）

- ・避難の状況について、二次避難については、県内6,319人、県外110人。
- ・その他、鉄道の状況について、東北本線福島～本宮間が本日開通、福島～仙台間が4月中旬、水郡線が安積永盛～常陸青柳間、常磐線いわき～高萩間が4月11日再開予定。

（2）モニタリング結果について

生活環境部次長（県民安全担当）：（別紙モニタリング1～3のとおり説明）

- ・数値は、いずれも横ばい、もしくは若干の低下傾向にある。

（3）「福島県被災者情報集約・双葉郡支援センター稼働状況」について

文化・スポーツ局長：別紙資料により説明

- ・双葉郡支援センターについて昨日は、319人の所在確認に至っている。
- ・避難所の入居者情報については、4月9日現在、74,910人分の情報を収集済み。問合せ状況については、4月9日現在、118件うち情報提供22件。

（4）二次避難実施スケジュール（予定）について

企業局長：別紙資料により説明

- ・本日の予定としては、829人名。累計で約8,000人が移動予定。

（5）緊急被ばくスクリーニングについて

保健福祉部長：別紙資料により説明

- ・本日をもって、ビックパレット及び勿来高校については、スクリーニングを終了する。

（6）「放射線に関する問い合わせ窓口」の利用状況について（第23報）

企画調整部長：別紙資料により説明

- ・内容については、学校関係が多い。また、農産物についての問合せも多い。日常生活関連の問合せも、女性から多い。雨が降ったがそれにふれて大丈夫かということなどあった。

- ・風評被害については、積極的に安全であるということを宣言してほしいという話があった。

(7)「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・内容については、果樹等に関する移行係数はあるのか、作付け制限の基準以下であっても、風評被害の補償はどうなるのか。また、出荷の段階で数値が高い場合も制限されるのかという問合せがあった。

- ・ラジオで「がんばろう ふくしま！」の取組みを耳にし、是非協力したいとの話もあった。

- ・家庭菜園を生き甲斐にしていたが、その機会が奪われてしまったとの話もあった。

- ・各種意見では、原乳に対する補償を早くしてほしい旨を事業者伝えて欲しいとの意見もあった。

- ・インターネットの掲示板にひどい書き込みがあったとの情報も寄せられた。

(8) 福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査実施計画について

生活環境部長：別紙資料による説明

- ・測定地点を増やして欲しい、詳細なデータが欲しいとの要望が多いため、今回県内全域を対象に県民の日常生活に不可欠な店舗、集会場など人が多く集うところを中心に詳細な環境モニタリングを実施するもの。

松本副知事：

東京都も協力いただくということで、よろしく願いしたい。

(9) 野菜の出荷制限地域におけるほ場に放置している野菜の取扱について

農林水産部長：別紙資料による説明

- ・これまで出荷制限をかけられている暫定規制値を超過した野菜の取扱いについて、変更があった。

- ・従来は、「まだ刈り取っていないものはそのまま放置する」という指示で

あったが、4月8日付けで農林水産省から以下のように取り扱うよう通知があった。「まだ刈り取っていないものは、すき込みをせずに、刈り取りをしてから、耕うん等の農作業を行っても差し支えない。なお、刈り取ったものは、一箇所に集めて保管する（ただし、コメの作付制限地域以外に限る）。刈り取りを行った後の農地については、耕運等の農作業を行っても差し支えない。」

- ・保管しているものの処分方法については、協議中のため、もうしばらく待つてほしいとのこと。

- ・農作業に関するものであるため、マスコミも報道をお願いしたい。

(10) 松本副知事から

- ・これから気温が高くなってくる。避難所における衛生指導については、専門家のアドバイスを受けながら、しっかり対応するようにお願いしたい。なお、壁新聞等で留意事項を明確にして協力をいただけるようお願いしたい。

- ・衛生上の観点、また様々な観点から大規模な避難所のあり方については、検討したほうが良いのではないかとの意見があった。水場の問題、精神衛生上の問題、防犯上の問題などもあるため、さらに点検し、二次避難について加速するなどの取組みをお願いしたい。

- ・一部報道で自主避難の方に対する家賃を補助の対象にするという内容が流れた。災害救助法、あるいは、市町村が介在した民間施設の借り上げスキームからすれば、補助は難しいと思うが、検討状況について、事務局からお願いしたい。

生活環境部次長：

- ・国と調整した結果、住宅の規格がバラバラになり、避難者間の均衡を失するというので、災害救助法の対象にはしないとの回答を得ている。

- ・そのような方については、一次避難の上、旅館・ホテルに二次避難いただくか、自治体が用意する公営住宅や民間借り上げ施設に移動いただくことになる。

松本副知事：

- ・間違ったメッセージを発すると混乱が生じるため、上記の件については、徹底して欲しい。

(11) 知事から

本日も頑張っていきましょう。

第83回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日 時：平成23年4月10日（日） 19：00～19：14
- 2 場 所：災害対策本部・自治会館303号室
- 3 内 容：

（1）最新の被害状況について【災害対策本部より】

事務局：（第98報により説明）

- ・死者数1,248人（+6名）、行方不明者1,412名（△6名）
- ・水道断水 △1,900戸

（2）モニタリング結果について

生活環境部次長（県民安全担当）：（別紙モニタリング1～3のとおり説明）

- ・数値は、いずれも横ばい、もしくは若干の低下傾向にある。

（3）水道水中の放射性物質検査結果について（第18報）

保健福祉部長：別紙資料により説明

- ・4/9に採取した水道水の検査はいずれも乳児による飲用基準を下回った。
なお飯舘村については現時点で乳児の飲用を控える広報を継続している。
- ・中通り・浜通り地方の水道水はいずれも乳児による飲用基準値を下回った。
- ・会津地方の水道水の検査はいずれも限界値以下である。

（4）県放射線健康リスク管理アドバイザーによる教育関係者等説明会の開催について

教育長：別紙資料により説明

- ・広島大学 教授 神谷 研二氏講師による説明会を4/12（火）から県内6会場で連続して行いたい。参加者は公私立校長、幼稚園園長、各市町村教育委員会担当者、各地区のPTAの代表者など。説明会の内容は質疑応答も含めて県教育委員会のHP掲載し説明会の収録DVDを各市町村教育委員会に送付する。1,400名が参加予定。

（5）企業局長より説明

- ・工業用水道について

いわきの工業用水道が、地震・津波の影響で今のところ給水できていない状況だが、そのうち常磐線（鹿島工業団地）は4/11に通水試験を行い、漏水がなければそのまま本格開始となる。大剣線（大剣団地）は4/15に通水試験を行う。いわき線（小名浜臨海部）は4/18に通水試験を行う。いずれの3線とも一週間ちょっとで本格給水ができる。

- ・ 勿来工業用水道はすでに給水中、小名浜工業用水道は現在、海水を供給しているが、4月下旬までにはなんとか給水をしたい。好間工業用水道は給水中。
- ・ 相馬工業用水道は地震により断水し、今は暫定給水をしているが、4月中には本給水に復帰する見込みがある。

知事より：工業用水について今のこのような状況で産業が再開することは県民にとっても大きな勢い・勇気づけになる。関係企業にもしっかりと見通しを伝えること。

（6）農林水産部長より説明

・ 県産農産物のPRについて、枝野官房長官と海外プレスとの懇談会があったが、それに先だって、官邸から福島県産のいちごを送ってほしいとの要望があり、福島県産のとちおとめ8パックをお送りした。本日13時15分に海外プレスとの懇談会が開かれ、その際にいちごが提供され、官房長官、海外プレスもおおいしくいただいたとのことである。

（7）内堀副知事より

・ 震災から一ヶ月経過し、福島県として国に多くの要望書を提出した。昨日知事からそのフォローをしっかりとしてほしいと話があったが、システムとしてしっかりと進行管理をしなければならない。要請のうち検討中、手つかず、できないものについて、各部局でそれぞれの担当省及び局・課まで確認して我々が要請したもののカウンターパートナーが誰なのかきちんと確認する必要がある。担当課まで降りていない可能性がある所以我们たちの要請相手方（課長、課長補佐まで）チェックすること。そして、なぜ進んでいないのか理由を確認すること。また進行管理についても進めること。大事なもので残ってしまったものは、知事やいろいろな方々の力を借りて改めて要請すること。再度なぜこれが進んでいないのかネックになっているもの（制度や予算など）は、原子力災害のことを考えればそんなこと言っている場合ではないということを書いていかなければいけない。

(8) 知事より :

・今の話は大事なことで、今までもやってきたが再チェックをしっかりやってほしい。明日で震災から1ヶ月になる。体調管理に気をつけてしっかりがんばってほしい。

松本副知事 :

・明日の本部会議は10:30から開催する。明日14:46より黙とうをお願いしたい。

第84回福島県災害対策本部会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

1 日 時：平成23年4月11日（月） 10：30～10：47

2 場 所：災害対策本部・自治会館303号室

3 内 容：

松本副知事：

- ・オフサイトセンターからの出席職員に変更があったので紹介する。

原子力安全・保安院平岡次長：

- ・内藤に代わり本日から出席する。

（1）最新の被害状況について【災害対策本部より】

事務局：（第99報のとおり説明）

- ・避難の状況について、二次避難については、県内6,920人、県外110人。
- ・死者について、8名増となり1,256人。
- ・その他、鉄道の状況について、本日、山形新幹線福島～新庄間、奥羽本線福島～米沢間、水郡線安積永盛～常陸青柳間、常磐線いわき～高萩間が再開。

松本副知事：

本日各鉄道路線が再開し、明日には東北新幹線福島～那須塩原間、東北本線福島～仙台間が再開予定である。復旧が進んでおり、復興に向けて弾みがつくと考えられる。

（2）モニタリング結果について

生活環境部次長（県民安全担当）：（別紙モニタリング1～3のとおり説明）

- ・数値は、いずれも横ばい、もしくは若干の低下傾向にある。
- ・いわき市中央台北小学校の測定場所は、4月10日夜から、避難者のいるいわき市中央台南小学校に変更。

（3）「福島県被災者情報集約・双葉郡支援センター稼働状況」について

文化・スポーツ局長：別紙資料により説明

- ・双葉郡支援センターについて、昨日は319人の所在確認に至っている。
- ・避難所の入居者情報について、4月10日現在、75,154人分の情報を収集

済み。問合せ状況について、4月10日は107件うち情報提供27件。

(4) 二次避難実施スケジュール（予定）について

企業局長：別紙資料により説明

- ・ 本日の予定は1,059人、累計で8,765人が移動予定。

(5) 緊急被ばくスクリーニングについて

保健福祉部長：別紙資料により説明

- ・ 4月9日は、1,676人がスクリーニング実施。
- ・ スクリーニング実施場所は11か所であり、除染が可能な施設には○印を付している

(6) 「放射線に関する問い合わせ窓口」の利用状況について（第25報）

企画調整部長：別紙資料により説明

- ・ 4月10日は、230件の利用あり。
- ・ 内容については、学校関係が多く継続した調査を望む声が複数あった。
- ・ 避難指示の関係では、避難所から避難指示地域へ出入りをして家財道具を持ち出している方が多数あり、放射性物質が拡散するのでは、という心配の問い合わせもあった。

(7) 「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

- ・ 4月10日は、55件の利用あり。
- ・ 営農関係では畑における農作業、耕耘、農作業開始、流通関係ではモニタリング調査、出荷自粛野菜に関する問い合わせがあった。
- ・ その他、消費者の方から福島県産野菜を購入したいので、ネット販売している農場を紹介してもらいたいという問い合わせもあった。

(8) その他

知事：

- ・ 国に照会中の、学校関係における放射線に関する指針はどうなっているか。

教育長：

- ・ 3月31日付けで照会しているが、まだ回答がない。

原子力安全・保安院平岡次長：

- ・現在、文部科学省において原子力安全委員会と連携しながら調整中である。

知事：

- ・いつまでに示されるのか。現場では指示がないと困惑する。現地の大変さがわかっているか。霞ヶ関が遠いというのはそこである。現地の大変な気持ち、状況をちゃんと伝えてほしい。

(9) 知事から

本日で大震災後1か月になる。改めて気持ちを一緒にして適切・迅速にそれぞれに対応していきたいのでよろしくお願いしたい。

